

おひさま ニュース

2016
10月号
秋 号

〒294-0014 千葉県館山市山本1155番地 TEL:0470-25-5111 <http://www.awairyo.jp/>

発行責任者：水谷正彦 編集責任者：根本達也



山あり谷あり

院長 水谷正彦



振り返れば2008年4月に社会福祉法人太陽会安房地域医療センターが開院してから丸8年、毎年激しく変化をしてきました。

2010年4月には新電子カルテ(Kai)の導入、2011年12月外部評価ISO9001認証を獲得、2013年12月病院機能評価の認定を受け、2012年5月救急棟(1階救急センター、2階透視センター、3階外来リハビリセンター)を開設、同年11月無料低額診療を開始しました。

職員数は毎年増加の一途をたどり、常勤換算で2008年度267人が、2015年度490人となりました。消費税増税の対策として2014年度に施設管理・清掃業務、2015年度に給食業務を内製化したこともあり、職員数が倍近くに増えたことは喜ばしいのですが、バランスの悪さが収支に影響を及ぼした年度もありました。

入院患者数は2010年度と2014年度に低下した以外は上昇傾向で、2015年度は2008年度の1.4倍となりました。入院診療単価は2009年、2010年と連続して減少、それ以降は順調に増加しました。また、外来患者数も年々増加、2008年度1日平均190人が、2015年度は倍以上となりました。外来診療単価は医療保険改正等の影響もあり、2008年度から2012年度まで減少、その後の3年は増加や減少をくり返しています。医業収支は2008年度の1億3200万円の赤字から始まり、徐々に赤

字幅を減らし、2011年度には3360万円の黒字を計上しましたが、2012年度から再び赤字へと転じ、2015年度は久しぶりに3460万円の黒字となりました。

当院の生命線である救急部門は、北米式救急を取り入れ、開院から不動寺医師が活躍してくれました。救急外来患者数は2008年度年間17,075人(1日48.5人)が2011年にやや減少した以外は増加を続け、2013年度には1.4倍となり、その後はやや減少傾向となっています。一時、弥永医師、野田医師を加え救急専門医が3名おり羨望的でしたが、その後、弥永医師が留学し、不動寺医師が亀田総合病院へ救命救急センター長として戻ったため、昨秋からは野田医師を中心に救急診療を行っています。その他の医師部門は、2015年8月に外科の深澤部長、太田医長の着任でようやく充実しました。しかし、本年3月に循環器科常勤医2名が亀田総合病院へ戻り、放射線科医や消化器科常勤医2名が退職しました。10月に循環器科常勤医が着任しましたが、それ以外の医師の獲得が急務であり、今年度の新専門医制度開始の延期など、苦戦が予想されます。

2017年には安房医療福祉専門学校の1期生が卒業します。新しい看護師が誕生し採用が見込まれ、7:1看護基準の獲得も目指す予定です。本年度は過渡期と位置づけていますが、2年後の医療保険と介護保険の同時改正に向け、医療と介護のコラボレーションを目的とした中長期計画プロジェクトを発足させました。どのような計画のもとに走り出すのか楽しみです。当院の理念「明るい笑顔で、最適な医療を提供いたします」のもと、職員一同力を合わせ邁進していきます。

診療科のご紹介	総合診療科	消化器科	循環器科	腎臓内科	糖尿病内分泌内科	神経内科
	小児科	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	膠原病内科	呼吸器科	皮膚科	腫瘍内科
	外科	肛門科	整形外科	スポーツ整形	乳腺科	ペインクリニック
	救急科	透析科	泌尿器科	甲状腺外来	リハビリテーション科	

神経内科

当院の神経内科では、主に脳・脊髄・末梢神経・筋肉の病気を診ています。症状はたくさんあり、意識がおかしい、忘れっぽい、けいれんする、力が入らない、しびれ、めまい、歩きにくい、頭痛、呂律が回らない、体が勝手に動くなどがあります。病名は脳梗塞・脳出血、アルツハイマー病、てんかん、パーキンソン病、片頭痛、多発性硬化症、重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、ハンチントン病などがあります。神経疾患は多くの場合完治が難しく、時間と共に悪化していく進行性のものや、いったん治まっても再発するもの、何らかの後遺障害を残すことも多くあります。当科ではこれらの症状や疾患・後遺障害に対し、投薬、検査、点滴、注射などの治療をしています。

他の医療機関と連携をとりあい、当院で検査や治療ができない場合や、通院その他、セカンドオピニオンも含め、ご希望による他院への紹介

予約センター ☎0470-25-5121

月～金曜日 8:30～17:00、土曜日 8:30～12:00

も行っています。

外来診療は原則として予約制ですが、予約外でもできる限り多く受け入れをしています。このような理由で待ち時間が長くなり、予約の時間を過ぎることもしばしばありますがご了承ください。来院前には予約センターにご連絡ください。

神経内科に限らず診療を行うには、患者さま側・医療者側双方の協力が必要です。「おまかせ」では診療は成り立ちません。少しでも良くなるように、共に努力していきたいと考えています。

ひらた しゅうじ
平田 秀爾 部長 神経内科

部認定資格：認定内科医
神経内科専門医
総合内科専門医

出身地：東京

趣味：音楽鑑賞・読書

房総の好きなおところ：人がおだやかなところ



安房カフェプロジェクト

シリーズ①

こんにちは！ Awa-café project です

医師 吉田 真徳

2014年春に「健康と暮らしと医療」について考えるAwa-café projectが発足しました。Awa-café projectでは、地域の方々と医療者が健康などについての対話(茶話会・カフェトーク:名称の由来)を通して共に学び合う場作りを行っています。現在「運動と健康」、「食と健康」をメインテーマにとりあげ、老年症候群や生活習慣病



減塩食

の予防などを念頭に、健やかに暮らす事ができるような日頃の工夫を体験していただき、普段の生活で取り組めそうな事などを一緒に考える内容と

コグニサイズ



なっています。これまで、「転倒・骨折(ロコモティブシンドローム)予防」「認知症予防運動:コグニサイズ」「減塩食」をテーマに会を催し、毎回20～30名の参加者を迎えました。健康への取り組みについて体験し、語り合う事で、楽しく学ぶ事ができ感動したと好評です。

今後も定期的開催予定です。みなさまにお会いできるのを楽しみにしています。



ロコモティブシンドローム

なぜ？なに？マンモグラフィ

診療放射線技師・

検診マンモグラフィ撮影技術認定技師

岩田 雅子



近年日本女性の約12人に1人が乳がんにかかり、年々増加しているといわれています。残念ながら乳がんの予防法はありませんが、早期ならば約90%が完治するといわれます。よって早期発見のための定期検診が大切です。その中のひとつマンモグラフィの紹介をします。

マンモグラフィは乳房専用のX線撮影です。100%ではありませんが、乳がんや乳房にできる病気をほとんどみつけることができます。大きな特徴は、触れてもわからない早期乳がんのサインのひとつで、砂粒程の極細かい石灰化(カルシウムの沈着)が鮮明に写ること、乳房全体像がみえ左右や過去画像と比べやすく、組織の微妙な変化もわかります。

当院は、女性技師が全て乳腺撮影を担当します。上半身裸になり片方ずつ撮影します。乳房全体が写るように、技師の手で平たく引き伸ばし、圧迫板という板で強めに押さえて撮影します。これは診断に必要な写真撮影に重要です。乳房は立体的で圧迫せずに撮影すると、乳腺や血管などが重なり、腫瘍があっても写らないこともあります。圧迫の痛みは人それぞれで、つらい時は遠慮なくお知らせください。圧迫板は一定以上の圧力はかけられない設計ですのでご安心ください。

X線検査であるマンモグラフィは放射線被曝があります。1枚分の被曝量は、東京～ニューヨーク間飛行時の自然放射線とほぼ同量で、わずかなのでほとんど危険はありません。

当院は、マンモグラフィ検診施設画像の認定を取得しています。この認定は、マンモグラフィの技術と画質、被曝、機械管理、読影など細かく審査され、乳がん検診の基準を満たした質の高さが認められた施設にだけ与えられます。これからも向上を目指し、みなさまに気持ちよく検査を受けていただけるよう精進していきます。

参考・国立がん研究センターがん対策情報センター統計
認定NPO法人乳房健康研究会資料

栄養コラム

チョコレートテリーヌのベリーソース
木の实とフルーツ添え

チョコレートテリーヌに『不老長寿の果物』といわれるイチジクや木の实をステキに飾りましょう。季節の食材は栄養価も高いですよ。

調理師 鈴木 正人



<作り方>

- ① チョコレートとバターを湯せんにかけ、泡立て器で混ぜながらクリーム状になるまで温める。
- ② ボウルに卵黄2個分、グラニュー糖20gを入れ、白っぽくなるまで泡立て器で混ぜる。
- ③ 別のボウルに卵白2個分と残りのグラニュー糖を入れ、かためのメレンゲを作る。
- ④ ②に③を3回に分けて加えてゴムベラで切るように混ぜる。そこに①のチョコレートを加え、更にミックスナッツとラム酒を加える。
- ⑤ ラップを引いた型に④を流し入れ、冷蔵庫で一晩冷やす。(チョコレートテリーヌ)
- ⑥ 赤ワインを火にかけてアルコールを飛ばし、砂糖・ハチミツを入れて冷やし、ミックスベリーを入れる。(ベリーソース)
- ⑦ 出来上がったテリーヌをカットして皿に盛り付け、⑥のソース、フルーツを飾りつけてできあがり。

<材料>

- ・ビターチョコレート … 150g
- ・ミックスナッツ … 70g
- ・バター … 60g
- ・卵 … 2個
- ・グラニュー糖 … 40g
- ・ダークラム酒 … 30ml
- ・ミックスベリー … 80g
- ・フルーツ(イチジクなど) 適宜
- ・赤ワイン … 100cc
- ・砂糖 … 20g
- ・ハチミツ … 60cc



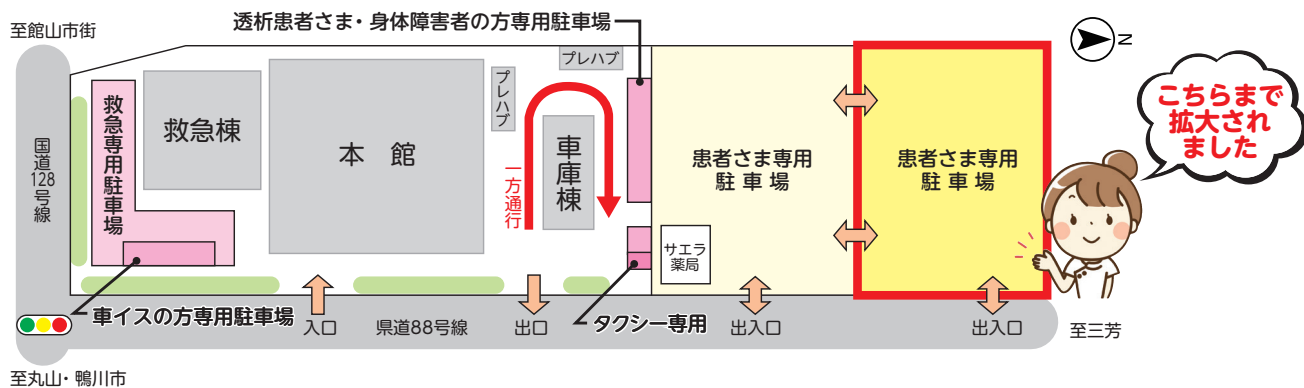


患者さま専用駐車場



患者さま専用駐車場の不足や混雑を緩和するため拡張整備をしました。これに伴い、患者さまが利用可能な駐車場は下図の範囲です。なお、救急棟駐車場（有料）は、救急受診の患者さま

とご家族さま、車いす使用の方が運転者の場合のみ、救急センター1階受付で無料認証をいたします。ご利用に際してのご理解ご協力のほどお願い致します。



「国際支援という選択肢」職員向け講演会



6月24日（金）当院職員を対象に講演会が開催されました。講師は、4月から約3ヶ月間の出向で救急科に勤務していた亀田総合病院救命救急科医長中山恵美子医師です。同医師は、国境なき医師団という国際NPO（非営利組織）に参加し、アフガニスタンや世界の国々で活躍をしています。今回は、国境なき医師団での活動や現地の様子、実際にあった話など映像を交え紹介しました。また、国際支援に興味がある職員から、どのような経歴や経験が必要かなどの質問に答える時間も設けられました。

看護学生実習

平成26年4月に開校した安房医療福祉専門学校は今年で3年目を迎え全学年がそろいました。

4月から11月までの期間、当院の病棟やいろいろな部署で、各学年がそれぞれの課題に応じた実習を行っています。なかでも3年生は、入院している患者さまを受け持ち、看護師からの指導を受け、熱心に実習に臨んでいます。



熊本地震関連報告

4月14日に発生した「平成28年熊本地震」により、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

安房地域医療センターでは、現地の病院や支援団体を通じ人的・物的支援を行いました。

（内容）●ペットボトル入りの水600L ●職員からの義援金
●日本DMAT業務調整員太田麻衣子さんの現地派遣
復興に向けがんばっている被災者のみなさまを応援しています。



編集後記



「おひさまニュース」は今号で4年目に入りました。1・4・7・10月の年4回毎号1日の発行でしたが、今号から発行日が15日に変更となりました。掲載記事の中には、発行に近い時期にあった出来事や関連のありそうなが含まれています。発行に間に合わせるには、

集まった記事の見直しや印刷の準備にある程度の日数が必要で、タイミングが合わず今まで伝えることができなかった行事などもありました。発行日の変更で、より充実した情報の掲載ができるようになります。これからもフレッシュで役に立つ「おひさまニュース」をどうぞよろしくお願い致します。

じゅんべりい